

次のうち、機能的固着の記述として妥当なのはどれか。

1. 「マッチ箱をろうそく立てに使用する」ということが思いつけないなど、対象物の普段の使用方法に固執してしまい、別の使用方法が思いつかないことである。
2. 普段、足し算による解法に慣れていると、かけ算による解法が思いつかないように、ある種の解法への慣れが他の解法の発想を制限することである。
3. いったん仮説を立てると、仮説の立証に固執し、それに合った事象だけに注意が向くようになることである。
4. 難解な問題で行き詰まった際、休憩を入れずに持続的に問題に取り組むと、かえって解法が発想されにくくなるという現象のことである。
5. 同じ構造の問題でも数字や記号で表現されると、具体的な事物によって表現される場合よりも解法が思いつきにくいという現象である。

〔 正 答 番 号 〕 2 3 4 5

交流分析に関する次の記述ア～エのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 交流分析では、感情的な不適応を生み出すのは出来事ではなく、その人の非合理的な信念体系であるとし、非合理的な信念を合理的な考え方に修正していく。
- イ. 交流分析では、対人関係のパターンを分析するゲーム分析や人が無意識に演じている脚本分析などを行う。
- ウ. 交流分析では、人間は劣等性を持つ存在であるとし、劣等感を補償するために、より強く完全になろうという意志を「権力への意志」と呼んで重視する。
- エ. 交流分析に基づいて開発された性格検査法にはエゴグラムがあり、親、大人、子どもの自我状態からパーソナリティの特徴を捉える。

- 1. ア, イ
- 2. ア, ウ
- 3. ア, エ
- 4. イ, エ
- 5. ウ, エ

〔 正答番号 〕 1 2 3 5

チクセントミハイ（Csikszentmihalyi, M.）の提唱したフロー経験（体験）に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 熱中しているときの忘我の状態の感覚のことであり、行為と意識の融合、注意の集中、環境を支配している感情、自己目的性などの特徴がある。
2. 自我意識のうちの能動性の意識が障害された状態であり、他人に何かをさせられている、何かを考えさせられていると感じる体験である。
3. 創造的問題解決の過程において、洞察を得る瞬間にしばしば伴う「あー（わかった）」と声を出すほどに感動する心的体験のことである。
4. 回避できない不快な経験が繰り返されることによって生じる、何をしても環境を変えられないという全般的にネガティブな感覚のことである。
5. 目標へ接近していく行動が阻止された際に生じる緊張状態からくる不快な感覚のことである。

〔正答番号〕 2 3 4 5

ホリングワース（Hollingsworth, L. S.）による心理的離乳に関する記述として
妥当なのはどれか。

1. 青年期に生じる，家族の監督から離れ一人の独立した人間になろうとする試みのことである。
2. 出産直後から1週間頃までの母親に見られる一過性の気分と体調の障害のことである。
3. 2歳，3歳頃の子どもに，自我の発達により反抗的行動が出現してくることである。
4. 養育者の喪失や養育者との分離等によって，子どもが十分に特定他者との関係性を享受できなくなる状態のことである。
5. 乳幼児が乳房による満足の代わりに，ぬいぐるみなどで母親からの分離不安を防衛することである。

〔正答番号〕 2 3 4 5

印象形成における光背効果に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 他者がある側面で望ましい（又は望ましくない）特徴をもっていると、その評価を当該人物に対する全体的評価にまで広げてしまう傾向のことである。
2. 他者の性格や行動傾向を推測するときに、親や師などの関係者に対する評価を当該人物にまで適用してしまうことである。
3. 他者の性格や行動傾向を当該人物の人種、性別、所属集団などの特徴から推測してしまう傾向のことである。
4. 他者の性格や行動傾向を推測するときに、当該人物との最初の接触時の情報が後々まで強い影響を及ぼすことである。
5. 他者の性格や行動傾向を推測するときに、当該人物自体の特徴だけでなく、接触した場所の特徴が強い影響を及ぼすことである。

〔正答番号〕 2 3 4 5

文章理解モデルに関する次の文中のア～ウに入る語句がいずれも妥当なのはどれか。

キンチュ（Kintsch, W.）らは、文章理解の結果、読み手の心内に構築される意味の表象を、読んだ文章自体についての命題的な表象である「ア」と、読み手の知識構造に読解した情報が統合された「イ」とに区別した。なお、「イ」は必ずしも言語的表現をとるわけではないが、読み手はこれを心的に操作することで、テキストに明示されていない事柄の推論や他の場面への応用が可能となる。このような学習を「ウ」と呼んでいる。

ア	イ	ウ
1. テキストベース	状況モデル	テキストの学習
2. テキストベース	状況モデル	テキストからの学習
3. テキストベース	意味ネットワーク	テキストの学習
4. 状況モデル	意味ネットワーク	テキストからの学習
5. 状況モデル	テキストベース	テキストからの学習

〔正答番号〕 1 3 4 5

バーコウイツ（Berkowitz, L.）の攻撃行動についての理論に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 攻撃への本能的なエネルギーが自動的に蓄えられ、環境内に行動を誘発する刺激がある場合に固定的なパターンとしての攻撃行動が生じるとした。
2. 攻撃を喚起するものとして欲求不満に着目し、現実欲求不満を解決することではなく、欲求不満を発散させるために、欲求不満が一定レベルに達すると攻撃行動が生じるとした。
3. 他者からの否定的な印象を拒絶し、男らしさを印象付けることによって社会的アイデンティティを回復するために、攻撃行動が生じるとした。
4. 欲求不満によって生まれた怒りなどの不快感情によって、攻撃的動機づけが高まり、攻撃的意味を帯びた手がかりに接したときに攻撃行動が生じるとした。
5. 罰によって他者の態度や行動を自分が意図した方向へ変化させるために、人は攻撃や威嚇という手段を用いるとした。

〔正答番号〕 1 2 3 5

「9歳の壁」（「10歳の壁」）に関する記述として妥当なのはどれか。

1. 近年では栄養状態が改善され身体的発達はよくなっているものの、9歳前後の児童期の運動機能の低下が顕著になっていることである。
2. セルマン（Selman, R.L.）による社会的視点取得の発達において、未分化・自己中心的な視点の水準から、主観的・分化した視点の水準にいたる難しさのことである。
3. 学力の個人差が拡大し、その学年に期待される学力を形成できていない子どもの数が増加する現象のことである。
4. エリクソン（Erikson, E.H.）が提唱した、この時期に訪れる「勤勉性 対 劣等感」という心理社会的発達課題のことである。
5. 9～10歳前後の急激な身体的変化において、男子の成長のピークが女子よりも遅れることである。

〔正答番号〕 1 2 4 5

リーズン（Reason, J.）のスイスチーズ・モデルに関する記述として妥当なのはどれか。

1. 重大な傷害事故，軽い傷害事故，傷害のない事故が1対29対300の比率で発生しているとして，重大な傷害事故を防止するには，傷害に至らなかった数多くの事故の分析をし，そこに見出される問題を改善する必要があるとした。
2. 人間の行動・判断のパターンを三つの段階に分類し，経験を蓄積して作業に習熟するにつれ，知識ベース，ルールベース，スキルベースへと変化することを示した。
3. 医療事故の発生に関して，患者への処置や治療の業務に関する失敗が発見・訂正されないままスタッフに引き継がれると，引き継がれた者は失敗に気付くことが困難になり，より危険が増幅されていくとした。
4. 事故の発生を防ぐため，安全のための防護が幾重にも設けられているが，一つ一つの防護には欠陥があるため，偶然にも防護の穴が重なったときに，危険がその穴を通り抜けて重大事故に至るとした。
5. 作業現場において，作業者の無理や無駄を減らし，作業能率の向上や作業者の軽減を図るために，身体の使用，作業現場の配置，道具・設備の設計の三つの側面についての指針を示した。

〔正答番号〕 1 2 3 5